

府中市立南白糸台小学校は、第3次府中市学校教育プランの『目指す人間像』「他者も自分も大切に、思いやりと規範意識のある人・社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人・自ら学び考え行動する、個性と想像力豊かな人」を学校教育目標に重ねて教育活動の展開を目指した。

教育基本法の教育の目的や学習指導要領の理念をふまえながら、校長の子供観を保護者会やスクールコミュニティ協議会や職員会議、保護者会等で教職員・地域・保護者に明確に示して指導の方向性を共通理解し、学校一丸となって教育活動を創造する。

*教育基本法(教育の目的)

・教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

*学習指導要領 前文

・一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする。

【子供観】

～可塑性に富んだ可能性を秘めている存在
子供は未完 だからこそ学校で学ぶ～

- ・減点法ではなく 積み上げを大切に!(できていないことよりもできた・わかったを大切に)
- ・認め、ほめて、はげまして伸ばす!(自己肯定感を醸成)
- ・失敗することは 学ぶチャンスととらえる!(思いやり・自己調整力を育成)

このような考えに基づき、すべての子供の健やかな成長のために、「明日も行きたい!南白小」～すべての子供にできた・わかったの学ぶ喜びを!～を学校経営理念にもち、児童・保護者・地域・教職員にとって居心地の良い誇りのもてる学校づくりに努めた。

【明日も行きたい! 南白小】

すべての子供に「できた・わかった」の学ぶ喜びを

【学校教育目標】

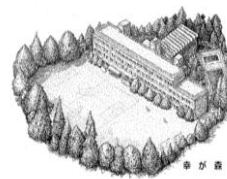
持続可能な社会の創り手として、共生社会を豊かな創造性と人間性で未知の世界を生き抜く児童を育成するため、次のとおり、学校の目標とこれを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。

- 【知】◎進んで学ぶ子ども (様々な課題・問題を主体的に解決しようとする児童「問題解決力」)
- 【徳】・助け合う子ども (違いを認め合い、みんなと共に生きていこうとする児童「人間関係形成」)
- 【体】・たくましい子ども (なりたい自分に向けてあきらめないうで努力する児童「実践力」)

以下は、学校教育目標の実現に向けて私が目指している学校像である。

1 【目指す学校】

- 「教師も子供もみんなが明日も行きたいと思える学校」
 - ・子供にとって「安心できる居心地の良い」安定した学級
 - ・教師にとって「心にゆとりと働き甲斐」のある学校
- 「教師が子供への深い愛情と実力をもっている学校」
 - ・子供に寄り添い愛校心をもち、子供の「できた・わかった」を共に喜び、やりがいを見出せる教師集団
 - ・チーム南白小で組織的に、子供に自信を付けさせられる教師集団
- 「地域から愛される学校」
 - ・地域とともにある校長の顔が見える学校
 - ・社会と結び付きのある学校 (ゲストティーチャーを招聘し学校HPやお便りで取組を発信する)



2 中期的目標と方策（学校教育目標と関連させて）

【明日も行きたい 南白小】 ~すべての子供にできた・わかった の学ぶ喜びを~

(1) 「進んで学ぶ子ども」の育成を図る

・問題解決能力の育成を通じた授業改善と確かな学力の定着

・個別的な学びと協同的な学びを取り入れた「分かる授業」の充実

→年間3回の授業観察、年間3回の研究授業と特別支援教室の実践報告会を実施。令和8年度の校内研究は「問いを追究する深い学びの創造」へシフトチェンジする。

(2) 「助け合う子ども」の育成を図る

・互いのよさを発揮する特別活動の充実を通して自己肯定感や自己有用感の醸成

・考える道徳教育の推進を通して望ましい行動や道徳的な価値への気付きの育成

→これまでの特別委活動の研究の蓄積を継承するとともに「考え・議論する道徳」の意識化、道徳授業の一部交換授業の実施。

(3) 「たくましい子ども」の育成を図る

・明るい挨拶と体力向上の推進で心身ともに健康で粘り強く自己調整する力を育成

→府中ロープチャレンジの取り組み、（低・中・高）に分かれての運動集会の実施。

(4) 府中市教育委員会の教育施策を推し進めその具現化を図る

・府中市いじめ防止対策推進条例に則りいじめ未然防止と早期発見

・不登校への適切な対応と関係諸機関との連携推進と重層的な支援

・連続性のある六中学区小中連携の推進

・大型ディスプレイ、タブレットやデジタル教科書等、ICT活用の日常化

・副校長等校務改善支援事業等の活用によるライフ・ワーク・バランスの推進

（月80時間超過勤務者ゼロ）

・校内委員会を中心に、個別に支援の必要な子供への一人一人に合った支援の充実

→「いじめ防止対策委員会」の定期的な開催「不登校対策委員会」を通して「けやき教室」や、学びの多様化学校「かがやき」への接続など組織的な対応、家庭への配慮も含めた「ケース会議」の実施など連携推進と重層的な支援。校務のデジタル化、会議の精選、支援員の配置による校務改善の実施。

(5) 地域・保護者との連携推進で信頼関係を築き、よりよい教育活動の実現

・地域とともにある校長の顔が見える学校

・社会と結び付きのある学校（ゲストティーチャーを招聘、ホームページやお便りで発信）

→地域行事への積極的な参加、地域GTとPTAボランティアによる3年生地域安全マップ作り、5年生稲作づくりの実施。

(6) 熱中症予防対策の徹底を図る

・運動会の5月実施や水泳学習の前倒しと夏季水泳の中止、こまめな水分補給、体育館のエアコンを活用した6月～10月の体育学習の実施

→ミストシャワーの設置、各学年にWGTP購入。

3 今年度の取組目標（●）と方策

(1) 教育活動の目標と方策

教育基本法の教育の目的や学習指導要領の理念をふまえながら、子供観を明確にし「府中市立学校の教育の充実を目指して」の具体的な取り組みを通して学校教育目標の実現を図る。

●南白系台小学校教職員一同が子供たちに「できた・わかった」の充実感を感じられるように意図的・計画的に教育活動を展開し、子供を「認め・ほめて・はげまして」心身ともに健康な成長を促し、未来に向かって希望に満ち溢れた日々を送れるよう、精一杯努めた。

(2) 重点目標と方策

①「進んで学ぶ子ども」について～確かな学力の観点から～【知】

- 府中市教育課程グランドデザインを受け持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力の育成を図りながら「進んで学ぶ子ども」を育成する。
 - 「発見すること（意欲・好奇心・課題発見力等）」
 - 「対話すること（コミュニケーション力・多様性等）」
 - 「決定すること」（自己調勢力・批判的思考力等）」
 - 「表現すること（実行力・表現力・責任感等）」
- ア 授業者には、週ごとの指導計画の中に反映させて、児童の実態を加味した授業のねらいを明確にし、グランドデザインの育てたい資質・能力を意識しながらPDCAのサイクルで授業改善を意識した。（1学期中に全員）
 - 1学期中に全員に週ごとの指導計画、授業観察の指導案にグランドデザインの視点を入れること、自己申告の第1回面接で授業ねらいと児童の振り返りから自らの授業を改善することを指導した。
- イ 子供たちには、東京ベーシックドリルを実施し、間違ったところは繰り返し個別的に学ばせたり e-ライブラリも活用したりしながら前学年の内容を理解させるように努めた。
 - 東京ベーシックドリルの活用を1学期末に行った。2学期には、全国学力学習状況調査の結果と2学期末に実施した東京ベーシックドリルの結果考察を担当から行い、全員で共有した。
- ウ 子供たちには、単元の終末には、振り返りをさせて何を身に付け、何を学んだのか明確にして学びの軌跡の意識化を図り、教師が認めほめて価値付けて自己肯定感を高めた。
 - 1学期初めの職員会議で学校経営方針の中にも位置付け授業改善の意識化を図った。校内研究の授業研究でも繰り返し認めてほめること、価値付ける指導を推進した。
- エ 校内研究では、予算を適切に執行し、研究授業を年3回開催する。算数科を中心に個別最適な学びと協同的な学びを取り入れて問題解決能力の育成を図るよう意識した。
 - 年間3回の授業研究と夏季休業中の実践報告会の実施。2学期以降の研究全体会で文科省の資料を説明しながら個別と共同を意識した学びの創造を話した。
- ②「助け合う子ども」について～豊かな心の観点から～【徳】
 - 子供は学年やチームで子供の心に寄り添い育てるという意識を明確にもち教育活動を行い、豊かな心の育成、自主的・実践的な取組を推進し「助け合う子ども」を育成する。
 - ア 「たてわり班活動」を活用して高学年のリーダー性や自主性を発揮する場面を設定することにより自己有用感を養うとともに、異学年交流によるお互いを思いやり助け合う共生の心情を醸成する場に活用した。
 - 6年生をリーダーに立ててあそびの計画を立てて年間9回「たてわり班活動」の実施を行った。
 - イ 1学期「あいさつ運動」2学期「ちょこっとボランティア」3学期「あったか言葉かけ運動」という本校の3本柱の取組を推進し、豊かな心の情操を養い、自己有用感や自己肯定感を高めた。
 - 「あいさつ運動」6月30日から7月11日まで実施 マスコットキャラクター「もくッポ」を助けるという企画を計画委員が立てて実施した。
 - 「ちょボラ運動」11月4日から11月14日まで実施
 - 「あったか言葉かけ運動」1月26日から2月6日まで実施
 - それぞれの取組みについてその実現状況を計画委員会が全校放送を使って紹介した。
- ウ 学年で道徳の交換授業を年間複数回実施し、学年の子供理解を深めて授業力向上を図りながら、道徳的価値について考え議論する授業を通して気付かせるとともに「いじめ防止」の授業を全学級で年間3回以上実施し未然防止に努めた。
 - 計画通りに実施。
- エ 「未来へつなぐ府中2020レガシー」事業では、郷土府中に残るお囃子体験やデフリンピックの見学やスポーツ競技の交流活動を通して障害者理解教育を推進した。

→お囃子体験 3年生で実施、府中 2020 レガシーのほかに「デフリンピック観戦」を4年生と6年生で実施。

オ 専科を副担任に全学年に置いたり教科担任制を活用したりすることで複数の目で子供を把握して SOS をキャッチするとともに、不登校やいじめなどの不安なことへの対応を組織的に行い子供の心の安定を図るように努めた。

→副担任の朝の会や給食指導、補教、担任とともに保護者との面談等を行い学年という意識が高まった。

③「たくましい子ども」について～健やかな心と体の観点から～【体】

●「なりたい自分像」「やってみたい目標」をもたせてあきらめないで努力する粘り強さや、たくましさを育成する。

●心身ともに健康で「体力向上」を推進したり、生活習慣の改善を図る指導を実施したりしながら、健康の保持増進に取り組む

ア 府中市スポーツトップチームと連携した事業を活用して、子供たちに体を動かす楽しさやトップアスリートの努力に触れ、夢や憧れ希望をもたせたり、外部からゲストティーチャーを招いたりして職業理解・生き方を考えるキャリア教育を推進に取り組んだ。

→全学年実施。

イ 熱中症対策を講じながら体育科の学習の体づくり運動を充実させたり、「ふちゅうロープチャレンジ」や「持久走」を活用したりしながら運動の楽しさを実感させて運動の日常化を推進した。

→昇降口2か所にミストシャワーの設置、WGTP計測器の各学年購入。

ウ 保健主任・給食主任を中心に給食指導・食育・食物アレルギー事故防止対策等を組織的に全校で推進できるように早い時期に確立する。

→4月エピペン・アレルギー対応研修・2月学校保健員会計画通りの実施。

エ 健やかな心の育成の第一歩として、校長自ら校門に立って朝の挨拶をする。年間を通して挨拶に力を入れ、挨拶を交わす心地よさやそのよさを実感させることに努めた。

→毎朝の登校指導、児童による期間集中の挨拶運動の実施。

④ 府中市教育委員会の教育施策について

●学びの機会を保障し学びを支え、よりよく生きる力を育成する。

ア 多様な教育ニーズに対応するため、コーディネータを中心に校内委員会で協議し、サポートルームの活用やタブレットを使った学習支援など配慮を要する児童の個に応じた指導を重層的に行った。

→校内委員会での検討を基に組織での対応推進と巡回指導の活用による計画的な個別の支援の実施。

イ 毎週金曜日の夕会で子供の様子について共通理解を図り、必要に応じて臨時で「いじめ対策委員会」や「校内委員会」を開催し、管理職・生活指導主任を中心に関係諸機関（指導室・はばたき・バーチャルラーニングプラットフォーム・けやき教室・みらい・警察・児相・SC・SSW）と連携し組織的に早期に対応に努めた。

→不登校支援と特別支援との整理を行い「けやき教室」「学びの多様化学校 かがやき」への接続や児相や子ども家庭支援センターみらいとの情報共有と定期的な面談の実施。

ウ 特別な支援を要する児童に対し、個別の学校生活支援シート及び連携型個別指導に計画や目標を定め保護者と共有し、個別指導計画の目標達成のための指導を充実させる。

→校内委員会での検討を基に組織での対応推進と巡回指導の活用による計画的な個別の支援の実施。

エ 高学年の教科担任制のよさや成果を全員で共通理解し、その充実を推進した。

→専科教員の副担任制度による、朝の出欠確認や個人面談の複数体制の実施。

オ ライフ・ワーク・バランスを推進し、必要な会議・行事・教育課程を見直したり、学校経営支援員等の支援を生かしたりして働き方改革を推進することを意識した。

→校務のペーパーレス化の推進、勤怠管理の実施、2学期からボトムアップ型の経営会議の設立と主任への周知で会議にスリム化等で余白を生み出し心に余裕を生み出す取り組みの実施。

⑤ 地域・保護者との連携について

●学校から発信し信頼関係を築き、よりよい教育活動の実現を目指す。

ア スクール・コミュニティ協議会や第六地区青少対委員会で本校の教育活動を伝えて理解と協力の空気を醸成に努めた。

→年3回の協議会の実施、年4回の委員会参加ほか

イ 総合的な学習の予算を執行し、地域の方をゲストティーチャーに招いて米作りについて学び、生命尊重や生育の苦労や収穫の喜びを実感させた。

→6年「キャリア教育」5年「稲づくり」4年「ホテルの観察」3年「地域安全マップ」

ウ 教員が地域行事に参加して地域での子供たちの様子を知るとともに地域との連携を強くする。また、地域行事への参加を「若手教員研修」の「外部との連携」に位置付けた。

→若手研修の外部との連携に位置付け「くらやみ祭り」の参加実施。

エ 個人面談で子供の育ちや学びの様子を丁寧に伝えていくことを努力した。

→夏季休業中の全学年面談の実施。

オ 各種行事や学校評価で保護者アンケート実施し、外部の声に対して真摯に耳を傾け、迅速かつ丁寧に対応するとともに次年度への教育活動に生かすように努めた。

→8年度運動会の実施計画の見直しと9年度開催の展覧会への申し込み

4 今年度の取組の具体的な10の数値目標

(1) 算数「東京ベーシックドリル」を活用し「知識・技能」の定着ができるように前学年の内容を理解させる。(正答率8割の子供80%以上)

→3年84.3%、4年71.6%、5年63%、6年47%

(2) 育てたい資質・能力を意識させて授業改善を図る。(全教員)

→4つのグラウンドデザインを週ごとの指導計画に明示したねらい100%実施、授業観察や校内研究の授業研究での指導案に加筆。

(3) 国語〔言語事項〕漢字など(期末に実施する言語のワーク)を活用して実施し80点以上8割を目指す。

→低学年90%以上の定着の割合1年44%2年44.5%

中高学年85%以上の定着の割合3年40%、4年62%、5年80%、6年83%

(4) 繰り返し個別的に学ばせたりe-ライブラリも活用したりしながら現学年の内容を理解させる。(勉強がわかると思える子供80%以上) →低学年95.6% 中高学年94.6%

(5) 学びの軌跡の意識化を図り、自己肯定感を醸成する。(自分にはよいところがあると考える子供80%以上) →低学年94.6% 中高学年84.1%

(6) 国語・算数が好きと回答する子供70%以上

(7) 進んで明るい挨拶をする子供85%以上 →低学年94.0% 中高学年85.7%

(8) 安全に学校生活を過ごしている子供85%以上(登下校も含めて)

(9) 学校生活が楽しいと答える子供85%以上 →低学年95.5% 中高学年93.9%

(10) この仕事にやりがいを感じている先生90%以上 →92%が肯定的な意見

5 今年度の総括

(1)【学習について】

子供たちの回答では、「勉強が分かる」と答える割合は高い(低学年95.6% 中高学年94.6%)が学期末漢字テストや東京ベーシックドリルの結果と比して基礎・基本の定着を

図る数値とは乖離がみられる。(低学年 90%以上の定着の割合 1年 44% 2年 44.5% 中高学年 85%以上の定着の割合 3年 40%、4年 62%、5年 80%、6年 83%)

言語事項に関する定着では、低学年より高学年の方が高い。計算事項については、逆の現象が見られており低学年が高く学年が進行するにしたがって定着率が低くなっている。

指導の工夫・改善が必要である。タブレットを活用して、各自にあった内容の繰り返し個別の学習を行うことや、考える授業、話し合う対話的な授業の創造により、「深い学び」の実現と基礎・基本の確実な定着を図る改善が次年度への課題である。

(3) 【生活について】

学校生活を楽しんでいる割合は高い。(低学年 95.5% 中高学年 93.9%) 進んで挨拶をする児童の割合は目標を超えた。(低学年 94.0% 中高学年 85.7%)

「あいさつ」と「あんぜん」2つの「あ」は、今後も大切にして教育活動に当たり、安心できる教室と落ち着いた教育環境を整えていく。素直で前向きに取り組む南白系台小学校の子供たちのよさを大切にすべての子供が「明日も行きたい」となるように一人一人を大切にした指導を心がけ保護者や地域の理解を得ながら教育活動を展開していくことが次年度への課題である。

(4) 予算の執行状況について【令和8年2月時点】

	【配当額】	【執行額】	【残額】	【執行率 %】
教職員研修費	¥ 15,200	¥ 14,626	¥ 574	96.2%
学校図書館費	¥ 555,500	¥ 528,822	¥ 26,678	95.2%
音楽活動等振興費	¥ 95,800	¥ 82,185	¥ 13,615	85.8%
家庭と子供の支援員	¥ 383,040	¥ 362,115	¥ 20,925	94.5%
学校経営支援員(3月分見込含み)	¥ 4,897,700	¥ 4,88,990	¥ 8,710	99.8%
総合的な学習振興費 需用費	¥ 100,000	¥ 99,269	¥ 731	99.3%
校外学習等運営費	¥ 973,500	¥ 973,500	¥ 0	100.0%
児童会等特別活動運営費	¥ 87,200	¥ 77,383	¥ 9,817	88.7%
教科用消耗機材費	¥ 3,778,500	¥ 3,661,120	¥ 117,380	96.8%

教職員の研修には、外部講師をお招きして児童の理解を深める研修を実施し、多様な見方をもつ大切さについて学ぶことができた。学校図書館の充実に学校司書と連携して推進することができた。さらには、この学びで得た知識や技能を授業力向上へ結び付けていくことが課題である。

本校のウインドアンサンブルでは、「森の音楽会」を開催したり、六地区青少対のクリスマスコンサートに参加したりするなどし、保護者や地域の方に演奏を披露して、成就感ある活動ができた。部員を確保して経済的負担の軽減・技術的向上を図ることが課題である。

サポートルームの活用や不登校対策に予算を活用することで、きめ細やかに児童の支援を行うことができた。居場所場所づくりとしての機能を果たしていることが成果である。

総合的な学習の時間では、地域の方をお招きした「稲づくり」や「地域安全マップ作り」

で地域と連携した体験的な活動を行うことができた。さらに理科支援員が配置されていることで実験や観察の学習が円滑に行え、高学年の教科担任制の充実を図ることができた。また理科室が整った状況を維持することができた。また、これまで培ってきた特別活動の充実に努めることができた。これからも、特別活動の教育の質を落とすことなく主体的な自治能力を高めていく必要がある。

各学年の教育活動のねらいに沿って消耗品の充実を図るとともに校外学習で教育的なねらいに即した必要な物品等を執行することで学びの充実に充てることができた。今後はICTを活用して私費負担の軽減を図ることが重要である。

引き続き、教育活動の充実に資する適切かつ有効的に予算を執行していくことが課題である。